

# しえいくはんず

2013.4  
No.38

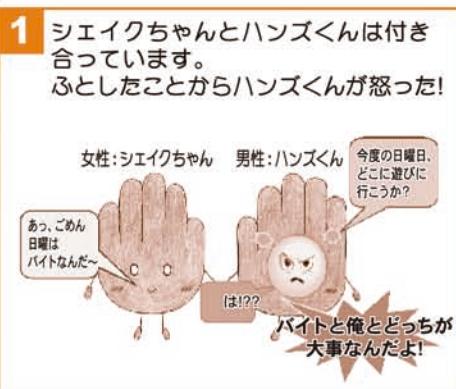
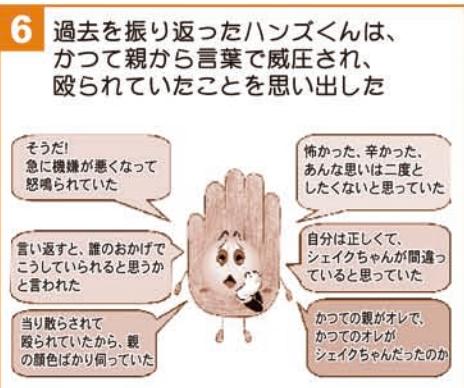
しえいくはんずは、男性も女性も慣行や慣習にとらわれることなく、自分らしくいきいきと生きられるよう応援している通信です。

## 男女共同参画戦隊DKS!!

# STOP! THE デートDV!

～シェイクちゃんとハンズくんの場合～

その後：ハンズくんは、シェイクちゃんに謝り、二度と暴力をふるわないと約束しました。再び、暴力が起きるときには、ハンズくんは、シェイクちゃんはひとりで抱え込まずに、誰かに相談して解決しようと約束しました。再び、暴力が起きたときには、ハンズくんは、シェイクちゃんが、友だちからもらったカードをかざして助けを求めた



内閣府の「男女間における暴力に関する調査」(平成24年度)では、10歳代から20歳代の頃の交際相手（後の配偶者以外）からの暴力被害について、「身体に対する暴行」「精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫」「性的な行為の強要」のいずれかをされたことがあった人は、女性で約14%、男性約6%であり、被害経験が少ないことがわかります。また、「どこ（だれ）にも相談しなかつた」人も約34%おり、誰にも相談できずにいる人が多いのが現状です。男女共同参画推進センターでインターネットシップ（平成24年9月）を行った大学生が、デートDVを根絶するために戦隊ショーのシナリオを作成しました。その一部を紹介します。

※デートDVとは、交際相手からの暴力のこと  
※男女共同参画DKSのDは男女、Kは共同、Sは参画の略

男女共同参画推進センターでは、配偶者からの暴力を初めとして様々な女性への暴力を防止し、男女が互いの人権を尊重することの大切さを考えるための講座・講演会を実施しています。参加された方が何を感じ、どう思つたか伝えるために参加者の声を抜粋して掲載しました。

## 人権について考える講演会

# 「時代や社会に無関係な事件など存在しない ～東電OL・婚活詐欺事件が映し出すもの」

日時：平成25年2月23日（日）

講師：北原みのりさん（コラムニスト）



● 目からウロコの話でした。男女平等は画餅でしかない。男性にも生きづらい世の中ですが、それ以上の抑圧を女性が受けている現実があるということは、社会の闇を見るようです。このことを男性はほとんど理解していないでしよう。

テレビのワイドショーなどで報道される上辺のことしか知らない自分への反省になりました。（50代男性）

● 社会のあたり前は決してあたり前ではない。個人的に「私」として感じた違和感をとつかりにして北原さんの言われたような「嘘」や「偏り」、「とりつくろい」に敏感になり、男も女性が女性を保守的な考え方で裁く問題点も見えた。今後も人権についてよく見ていくこう思います。（30代女性）

● 自由にものを考え、語ることを手離さないとおっしゃったことが心に残りました。面白おかしく報道されているのを読んでいて私も色眼鏡で見ていたところもあると気づかされました。まじめに考える機会をもらえてよかったです。（40代女性）

● 「家事や介護というキーワードにひつかかる男性」「家事や介護をアピールして結婚相手を手に入れようとする女性」。これらの人たちは、婚活事件の加害者、被害者とされる人たちと何が違うんだろうという話がとても印象に残りました。裁判官や検察官は、その辺に気づいていないんだろうなあと思いました。結婚に世話役を求める男、生活保障（金）を求める女という構図は、今でも強く残っている、むしろ主流なんだなあと思いました。

● 私は、たぶん婚活詐欺事件被告と同じ年齢だと思いますが、小さいころから母が兄には家事をさせず、私にばかり強要するのに反発し、男女同権だと強く思っていました。ところが、恋人ができると家庭的と思われたくて料理を作つてみたり、結婚して子どもを授かると嫁の役割に自らからめとられてみたり。無意識のすりこみは恐ろしいと感じていました。ジエンダーに惑わされず、男も女もその人らしく人間関係を築けたらもつといい社会になると思います。そのためには北原さんの「大人の女性がはつきり自分の意見を述べること」を、私も自分のできる範囲でしていきたいと思いました。（30代女性）

● 最初から最後まで、実際に興味深いお話を聞き入つてしまつた。気づかされたことがたくさんあつた。（60代男性）

● 女もすべての人が生きやすいと思える社会に、まずは「私」から近づいていきたいと感じました。（40代女性）

● 女もすべての人が生きやすいと思える社会に、まずは「私」から近づいていきたいと感じました。（40代女性）



## 家族について考える講座

# 「一人ひとりにとつて居心地のいい家族とは、幸せの形に定番はない」

## 第1回 NHKドラマ「シングルマザーズ」をめぐつて

日時：平成25年2月28日（木） 講師：赤石千衣子さん（しんぐるまさあず・ふおーらむ理事長）

●シングルマザーです。ドラマは毎回かなり共感して観ていたのですが、その反響、人に与えた影響について気になつていきました。思つたよりもたくさん的人が講座に参加されていて、私たちのことを知つていただけるようで嬉しいです。（30代女性）

●シングルマザーになること＝孤独とばかり思つておりましたが、シングルマザーの生活を守ろうとする先輩方がいらっしゃることを知り、少し肩の力が抜けた気がしました。今後の自分自身について恐れることなく向き合つて、考えてゆこうと思いました。（30代女性）

●講師の、ハッピーエンドは「各々が自立した人生を送つていいこと」という言葉にとても共感しました。シングルで子育てをしていくことは大変ですが、まわりの協力や助けがとてもありがたく、人の優しさを知ることができました。扶養手当は、子どもに一番お金のかかる時期に支給されなくなつてしまふので、働いて稼げる力もつけていかなければと改めて感じた講座でした。（40代女性）

●シングルマザーが生きしていく上での大変さを初めて知りました。男性と同じように働くと思っていましたが、実際は、働けないということをこの講座で勉強しました。（40代男性）

## 第2回 家族の中の力関係と子ども

日時：平成25年3月5日（火） 講師：春原由紀さん（武藏野大学教授）

●ほつとできた。悩んで良いんだと思った。（40代女性）

●暴力についての勉強になつた。力による支配よりも傾聴することの大切さを学んだ。（40代男性）

●夫婦間のDVが、小さい子どもに大きな影響を与えていたことがよく理解できました。特に子どもが描いたイラストが痛々しく家族の状況を表現していると印象的でした。（30代女性）

●質疑もとても良かつたです。同じ思いをしている、同じ境遇の方がいることがわかつて、勇気がでました。産後、専業主婦になつてから夫との関係が変わってきたことにとまどいを感じています。（40代女性）

●経済的DV等、目に見えにくいDVについても詳しく知りたいです。子どもへの影響について深く考えさせられました。（30代女性）

●DVのお話は、私にはかけはなれた世界ではあつたけれど、DVのことを知り、その影響を考えるにはとてもわかりやすく、理解が深まる講座でした。（30代女性）



## 男女共同参画の視点で地域防災を考える講座

# 「安全のキーワードは参画」

日時：平成25年3月10日（日）  
講師：浅野幸子さん

（早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」  
客員研究員・東日本大震災女性支援ネット  
ワーク運営委員）

●地域の力、市民の力、子どもの力すら大切になる、というお話を心に響きました。普段からいろいろなことを考へ、想定して話し合い、自分たちがいろんな知識をもつて、災害に対応していくことが大切だなと思える講座でした。（30代女性）

●地域防災はまず、地域とつながることから。自治会の集まりに参加したことが多く、あまり関心がありませんでしたが、地域とつながる意味で、参加しようと思いました。そして意見が言える環境にしていければと思いました。（40代女性）

●災害時の対応について、実際に起きた状況に基づいた説明で、わかりやすく勉強になりました。（70代男性）  
●すごくよかったです。災害発生時の対応に関して現状を知ることができます

た。地域で話し合いたいと思います。

（30代女性）

●避難所の運営には、

小学生も中学生も当事者全員の参加が必要と

いうお話をハッとしました。少数のリーダーだけでは避難所運営が

づきました。（40代女性）



『あなた自身と家族、本当に守れますか？  
女性×男性の視点で総合防災力アップ』  
浅野幸子著（財）日本防火協会 発行より

# 生きかた相談の相談員とのQ&A

## Q

## A

—DVについて教えてください—

夫の暴力から守つてもらえる法律があると聞きましたが。

正式名は「配偶者からの暴力防止及び被害者の保護に関する法律」といい、2001年に立法化されました。一般的には「DV防止法」と呼ばれています。

暴力に対する法律ができたことによって、どういう点が良くなつたのでしょうか。

今まで単なる夫婦喧嘩だとして片づけられていたことが、家庭内で起きる暴力も人権侵害で犯罪であると定義されたのです。社会が認めたので、社会全体で協力して防止しなければならないことや、被害当事者は社会的に保護されること等が明確になりました。今まで3度の改正を重ねて少しずつですが、私たちの使いやすいものになつてきてています。

暴力はなぜ起きるのか、その背景を知りたいのですが。

暴力は経済力や体力、社会的立場の優位性を持つた者が弱い立場にある者を支配しようとするときの手段として使うものと言えます。女性と男性の経済的格差や社会的立場における女性への差別などが関係していると言われています。

説明を聞いてなるほどと思ったのですが、私の夫も、私が少しでも反論するともう大変です。怒鳴つたり、ものを投げつけたりして、私が「はい」というまで決して終わりになりません。たまには手も出ますし、夜中でも正座をして夫の説教を聞かされます。これは私に対する支配であり、暴力と思つてもいいのでしょうか。

はい、それは暴力です。DVといえます。

夫はいつも「本当は怒鳴つたりしたくないのに、そうされるのはお前だ！」と言うので、私が悪いのだ、私が気をつけて夫を怒らせないようにしなければいけないのだと思つていました。いつも夫に気を遣い、おどおどしながら悪いのは私だと自分で自分を責めていました。

を投げつけたり、ときには殴つたりする夫のほうです。怒鳴る理由、殴る理由を相手のせいにするのもDVの特徴です。

私が夫に怒鳴られたり殴られたりしていると、子どもはまだ3歳ですが、体を硬くして無表情になり、部屋の隅にうずくまっています。子どもは、直接暴力をふるわれていなければ大丈夫、私さえ我慢すればいいと思つていましたが、どうなのでしょうか。

子どもに手を出さなくとも、暴力を感じさせたり見せたりするのは子どもに対する心理的虐待です。自分の大切な父親が大切な母親に暴力をふるつているのを目撃すると、子どもはとても傷つきます。

子どもへの影響についてもう少し詳しく教えてください。

子どもはよく見ていています。例えば、男の子にとって父親が一番身近なモデルですから「女性は殴つてもいいのだ。殴れば言うこと聞く」と学習してしまいますし、女の子は「男性は暴力をふるうものだ」という学習をしていきます。この学習の修正は早いほうがいいですね。なぜならこのままだとデートDVの予備軍を養成していることになつてしましますから。

DVのことや子どものことを相談できるところはありますか。

DVの問題は一人で考えたり悩んだりせずに、男女共同参画推進センターの相談室などでDVに詳しい相談員に相談するのがいいと思います。支援してくれれる相談員と一緒に解決策を探していくましよう。また、子どもことは、まず子ども家庭支援センターで相談してみるのがいいでしようね。



## 発行／調布市男女共同参画推進センター

〒182-0022 調布市国領町2-5-15コクティー3階

TEL／042-443-1213 FAX／042-443-1212

メール／danjyo@w2.city.chofu.tokyo.jp

ホームページ／<http://chofu-danjyo.jp/>

交通機関／京王線国領駅 北口 徒歩1分

### 【相談予約受付時間】

月～金曜日（祝日、第3月曜日、年末年始を除く）

8時30分～17時

